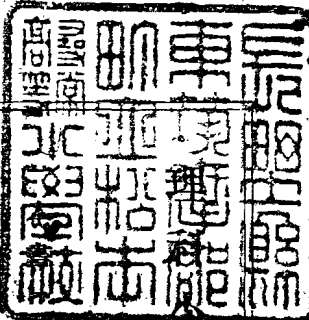




學卷之一

教師へ注意

基キ、程度ニ遵ヒ、慎思謹述シタルモノナリ、
小學校理科ノ教科用書ニ適セシメン爲ニ、教則大綱ノ要旨ニ

二、理科ハ其ノ包含スル所、誠ニ廣ク、動物、植物、礦物、物理、化學、生理ノ外、難シ、本書ハ專、事實ノ難易、關係ノ親疎ト、季節ノ適否トニヨリ之ヲ次第シ、後必總フルニ概説ヲ以テス、是兒童ヲシテ理會且記憶シ易カラシメ、智識ヲシテ連絡歸着スル所アラシメ、併セテ推論ノ方法ヲ悟リ、真理ノ唯一ヲ感ゼシメンガ爲ナリ、

三、觀察ノ精密ト、應用ノ廣濶トハ、理科教授ノ最意ヲ加フベキ所ナリ、本書ハ主トシテ、重キヲ實物ノ觀察ニ委ネテ文章ヲ簡單ニシ、貴キヲ智識ノ應用ニ歸シテ説明ヲ省略ス、之ヲ以テ一見簡略ニ過グル感ナキニ非ザルモ、其ノ實全ク之ニ反ス、是ノ故ニ本書ヲ用キテ教授ヲナス

モノハ、可及的兒童ヲシテ各自ニ實物ヲ携へ、實地ヲ調べ來リテ之ヲ解剖叙述セシメ、又ハ教師自兒童ヲ率ヒテ山川、海野、工場、牧地ヲ踏査實見セシメ、又ハ數多ノ實物、標本ヲ貯蓄シ、必用ノ栽培飼育ヲ實際ニ行ハシムベシ、之ヲ是務メズシテ、徒ニ本書ヲ用キルモ其ノ効ナキニ歸セン、之ヲ要スルニ本書ハ教授ノ總括ニ於テ用キルベキモノニシテ豫備、提示、比較、應用ノ如キハ皆教師ノ方寸ニアリテ存ス、

四、每學年ノ教授ヲ四十週、八十時トシ、尙臨時ノ休業、復習ノ時間等ヲ斟酌シテ教材ノ分量ヲ定メ、且毎時二面ヲ以テ限リトス、是出來得ル丈、實際ニ適切ナラシメ教フル人學ブ者ヲシテ共ニ便利ヲ感ゼシメンガ爲ナリ、

五、本書ハ反覆熟慮シテ、全體ノ順序ヲ立テ、題目ヲ定メシノミナラズ、其ノ各課ノ説明ニ至リテモ、丁寧詳密ナル苦心アリテ存ス、然レドモ氣候ノ變異ト、土地ノ情況トニヨリ、前後ヲ顛倒シ、本說附說ヲ交換スルガ如キハ、宜シク教授者ノ謹慎ナル考案ニ從フベシ、其ノ教授ノ方法、諸般ノ用意ニ至リテハ別ニ教師用ノ設ケアリテ存ス、

六、本書中、特ニ教師ニ注意スベキ事アリ、

- (一) 犬ノ附說ニ狼オホカミヲ入レタルハ、通常豺ヤイヌヲ以テスベキ所ナリ何トナレバ我國ノ所謂狼オホカミハ實ハ豺ヤイヌナレバナリ、サレド小兒ガ喰炙スルモノハ豺ニアラズシテ狼ニアルナリ、
- (二) 菖蒲ノ字ハ須ク溪蓀ナルベシ、然レドモ亦世俗ニ從ヒタリ、
- (三) 鼠ノ前齒上下二枚トアルハ、二枚ヅ、ノ意ナリ、
- (四) 旋花ヒルキナヲ本說トシ、牽牛花アサガハヲ附說トシタルハ、主客顛倒ノ嫌アレドモ、季節ニ束縛セラレタルナリ、
- (五) 富士石ハ安山岩ノ別名ニシテ花崗石ニ附說セルハ、唯均シク噴出岩ナルニヨリテナリ、
- (六) 石盤石ハ必ズシモ頁岩ノミニ限ラズ、廣ク粘板岩ヲ代表セシメタル假リノ俗稱ナリト知ルベシ、

明治三十三年十月

編者識

理科小學卷之一

目次

(四 月)

梅と櫻 其の一	一
梅と櫻 其の二	二
梅と櫻 其の三 (桃、李、梨)	三
猴	四
馬	五
油菜 (蘿蔔、蕪菁、芥)	六
牛 其の一	七

(五 月)

牛 其の二	八
牛 其の三 (羊、鹿、駱駝)	九
豚 (野豬)	十

龜	(鼈、瑤瑁)	三十七
爬蟲類		三十八
栗 其の 一		三十九
栗 其の 二	(桤、櫟、檜)	四十
燕 其の 一		四十一
(十一月)		
燕 其の 二	(雀、鶯、鳥)	四十二
鳩		四十三
柿、實		四十四
梨、實	(林檎)	四十五
雞 其の 一		四十六
雞 其の 二	(雉、孔雀)	四十七
鶩	(鴨、雁)	四十八
蜜柑		四十九

(十二月)

果實		五十
鴈	(鴈、鴨)	五十一
鷹	(鷹、鷂)	五十二
鳥類 其の 一		五十三
鳥類 其の 二		五十四
(二月)		
鮎	(鯉、金魚)	五十五
鯰	(泥鰌、鰻)	五十六
蛙	(鯉)	五十七
水晶	(石英、燧石)	五十八
砂		五十九
花崗石	(富士石)	六十

(三月)

粘土		六十一
石盤石		六十二

鯛	(魴、鰯、火魚)	六十三
鰯	(鰯、鰯、鰯、鰯)	六十四
鰻	(比目魚)	六十五
鮫	(鰐)	六十六
魚類		六十七
有脊動物		六十八
三 月)		
石灰石		六十九
石炭		七十
石油		七十一
石類		七十二

理科小學卷之一 目次 終

理科小學卷之一

藤堂忠次郎編

梅と櫻 其の一

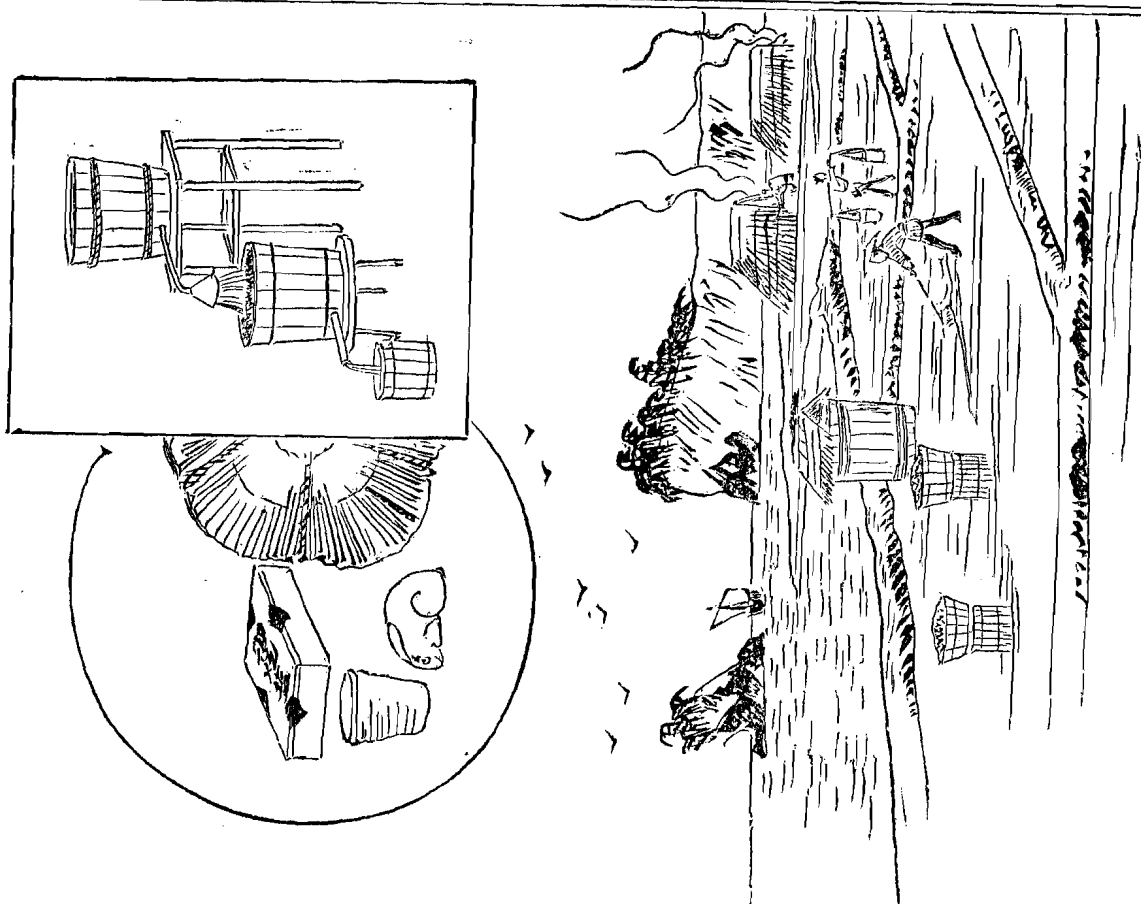
〔形體〕梅と櫻とには何れも其の花に美しき
五片ありこれを瓣といふ瓣の下には五に
さけたる萼あり萼の上には多くの細絲を

砂

〔性質〕色多くは白くして質甚堅し、石英の粒にして、まゝ水晶質のものあり、

〔所在〕河海にあり、その元は山中にある岩石のくだけて流れ來りしものなり、

〔功用〕濕多き畑に混ぜば、水のはけ方よく、惡水をこせば、良水となる、其他、鹽田鑄型にも用ゐる、

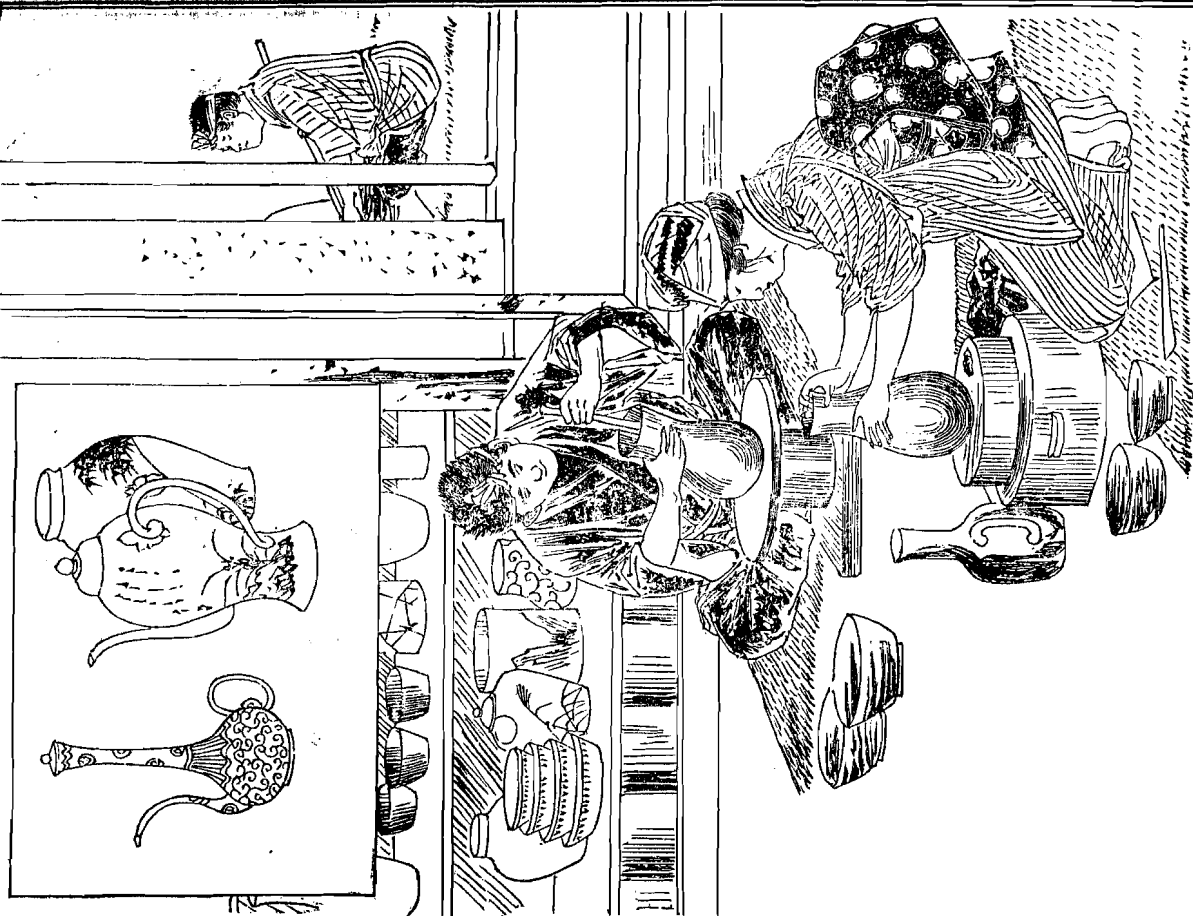


粘土

性質ぬらして嗅げば土くさく、嘗むれば舌に着く、質細にして粘^{ネバ}りあり。

所在山川、海底等^ニあり、岩中にある長石、雲母等の分解して生じしものなり。

功用 乾はげしき畑に混ずれば水分を保ち、又火に堪ふるを以て、土器となし、陶器に造る。



モノハ、可及的兒童ヲシテ各自ニ實物ヲ携へ、實地ヲ調べ來リテ之ヲ解剖叙述セシメ、又ハ教師自兒童ヲ率ヒテ山川、海野、工場、牧地ヲ踏査實見セシメ、又ハ數多ノ實物、標本ヲ貯蓄シ、必用ノ栽培飼育ヲ實際ニ行ハシムベシ、之ヲ是務メズシテ、徒ニ本書ヲ用キルモ其ノ効ナキニ歸セン、之ヲ要スルニ本書ハ教授ノ總括ニ於テ用キルベキモノニシテ豫備、提示、比較、應用ノ如キハ皆教師ノ方寸ニアリテ存ス、

四、毎學年ノ教授ヲ四十週、八十時トシ、尙臨時ノ休業、復習ノ時間等ヲ斟酌シテ教材ノ分量ヲ定メ、且毎時二面ヲ以テ限リトス、是出來得ル丈、實際ニ適切ナラシメ教フル人學ブ者ヲシテ共ニ便利ヲ感ゼシメンガ爲ナリ、

五、本書ハ反覆熟慮シテ、全體ノ順序ヲ立テ、題目ヲ定メシノミナラズ、其ノ各課ノ説明ニ至リテモ、丁寧詳密ナル苦心アリテ存ス、然レドモ氣候ノ變異ト、土地ノ情況トニヨリ、前後ヲ顛倒シ、本說附說ヲ交換スルガ如キハ、宜シク教授者ノ謹慎ナル考案ニ從フベシ、其ノ教授ノ方法、諸般ノ用意ニ至リテハ別ニ教師用ノ設ケアリテ存ス、

六、本書中特ニ教師ニ注意スヘキ事アリ、

- (一) 蓼ヲ本說トシ、藍ヲ附說トセルハ、輕重ヲ誤ルガ如シト雖、藍ハ地方ニヨリテハ實物ヲ得ルニ難キ所アリ、且蓼ハ普通ノ野草ニシテ、此ノ科植物ノ模範物ナリ、
- (二) 葉ノ概說ニ於テ、卵形、橢圓形、披針形、針形ノ四種ヲ擧ゲタレドモ、事實此ノ如ク僅少ニアラズ、然レドモ此ノ四種大要ヲ擧ケ得タリトイフベシ、
- (三) 蚤ヲ以テ蠅イナゴ、稻子イナゴ（俗字）ヲ以テ蜻蛉ボシラ、ヲ以テ蟬ニ附說スルハ場合ニヨリテ差支ナシ
- (四) 錢苔ハ地錢ゴツ、杉蘚ハ土馬駿ゴツト書スベキナリ、サレド故ラニ難屈ヲ避ケタリ、
- (五) 植物ノ總論ニ有花、無花ノ彙類アルハ、總ト其文字ヲ平易ニセルナリ、顯花、隱花ノ文字ヲ使用スルトキハ、却リテ淺薄ナル兒童ノ心ニ錯亂ヲ生スル恐アリ、
- (六) 蠕虫類ノ總論ニ、何れも多くノ關節……眼は皆之を缺けリトアル

ハ、大數ニテ定メシ語ナリ、拘泥スルコト勿レ、

明治三十三年

編 者 識

理科小學卷之二

目 次

(四 月)

發 芽		一
蒲公英 ^{キク} 公英 ^{キク}	 (菊)	二
柳		三
蜘蛛 其の 一		四
蜘蛛 其の 二		五
蝦 其の 一		六
蝦 其の 二	 (蟹)	七

(五 月)

蜈蚣	 (馬陸 ^{マダガ})	八
松 其の 一		九
松 其の 二	 (杉 ^{スギ} 檜 ^{ヒノキ})	十

桑 其の 一		十 一
桑 其の 二	(椿)	十 二
蠶 其の 一		十 三
蠶 其の 二	(蛾、蝶)	十 四
麥 其の 一		十 五

(六 月)

麥 其の 二	(稻竹)	十 六
蜂 其の 一		十 七
蜂 其の 一	(蟻)	十 八
蓼	(藍、蕎麥)	十 九
葉 其の 一		十 十
葉 其の 二		十 十一
水綿 スライム	(昆布、海苔)	十 十二
蠅		十 十三

(七 月)

金龜 コガネ		二十 四
蜻蛉 トビ		二十 五
蟬		二十 六
昆 虫		二十 七
節 足 類		二十 八

(九 月)

蓮		二十 九
百 合		三十 十
馬鈴薯		三十 一
莖と根		三十 二
蚌貝 カキ 其の 一		三十 三
蚌貝 カキ 其の 二	(蛤、牡蠣、蜆)	三十 四

(十 月)

蝸牛 カタツムリ	(田螺、蜆、螺)	三十 五
草魚 コイ 其の 一		三十 六

章魚 其の二 (烏賊)	三十七
軟體類	三十八
微 其の二	三十九
微 其の二	四十
蚯蚓	四十一

(十一月)

藻	四十二
錢苔	四十三
植物 其の二	四十四
植物 其の二	四十五
條虫 其の二	四十六
條虫 其の二	四十七
蠕虫類	四十八
海膽	四十九

(十二月)

珊瑚	五十
海綿	五十一
無脊動物	五十二
動物 其の二	五十三
動物 其の二	五十四

(一月)

金	五十五
銀	五十六
銅	五十七
鐵 其の二	五十八
鐵 其の二	五十九
風 其の二	六十

(二月)

風 其の二	六十一
錫	六十二

鉛	六十三
亞鉛	六十四
水銀	六十五
雨 其の一	六十六
雨 其の二	六十七
合金 其の一	六十八
(三 月)	
合金 其の二	六十九
金屬	七十
礦物	七十一
地球	七十二

理科小學卷之二 目次 終

理科小學卷之二

藤堂忠次郎編

發芽

〔形態〕種子より發芽したる幼植物は、小き根、莖、及葉をもてり之を稱して幼根、幼莖、及子葉といふ。蘿蔔の發芽は二個の子葉と、長さ幼莖とを有すれども、玉蜀黍は一個の子葉

學卷之三

教師へ注意

小學校理科ノ教科用書ニ適セシメン爲ニ、教則大綱ノ要旨ニ

基キ、程度ニ遵ヒ、慎思謹述シタルモノナリ、

二、理科ハ其ノ包含スル所、誠ニ廣ク、動物、植物、礦物、物理、化學、生理ノ外、雜
フルニ天文、地文、氣象等ヲ以テス、是ノ故ニ之ヲ融解統合スルコト甚
難シ、本書ハ專事實ノ難易、關係ノ親疎ト、季節ノ適否トニヨリ之ヲ次
第シ、後必總フルニ概說ヲ以テス、是兒童ヲシテ理會且記憶シ易カラ
シメ、智識ヲシテ連絡歸着スル所アラシメ、併セテ推論ノ方法ヲ悟リ、
真理ノ唯一ヲ感ゼシメンガ爲ナリ、

三、觀察ノ精密ト、應用ノ廣濶トハ、理科教授ノ最意ヲ加フベキ所ナリ、本
書ハ主トシテ、重キヲ實物ノ觀察ニ委ネテ文章ヲ簡單ニシ、貴キヲ智
識ノ應用ニ歸シテ説明ヲ省略ス、之ヲ以テ一見簡略ニ過グル感ナキ
ニ非ザルモ其ノ實全ク之ニ反ス、是ノ故ニ本書ヲ用キテ教授ヲナス

モノハ、可及的兒童ヲシテ各自ニ實物ヲ携ヘ、實地ヲ調べ來リテ之ヲ解剖叙述セシメ、又ハ教師自兒童ヲ率ヒテ山川、海野、工場、牧地ヲ踏査實見セシメ、又ハ數多ノ實物、標本ヲ貯蓄シ、必用ノ栽培飼育ヲ實際ニ行ハシムベシ、之ヲ是務メズシテ、徒ニ本書ヲ用キルモ其ノ効ナキニ歸セン、之ヲ要スルニ本書ハ教授ノ總括ニ於テ用キルベキモノニシテ豫備、提示、比較、應用ノ如キハ皆教師ノ方寸ニアリテ存ス、

四、毎學年ノ教授ヲ四十週、八十時トシ、尙臨時ノ休業、復習ノ時間等ヲ斟酌シテ教材ノ分量ヲ定メ、且毎時二面ヲ以テ限リトス、是出來得ル丈、實際ニ適切ナラシメ教フル人學ブ者ヲシテ共ニ便利ヲ感ゼシメンガ爲ナリ、

五、本書ハ反覆熟慮シテ、全體ノ順序ヲ立テ、題目ヲ定メシノミナラズ、其ノ各課ノ説明ニ至リテモ、丁寧詳密ナル苦心アリテ存ス、然レドモ氣候ノ變異ト、土地ノ情況トニヨリ、前後ヲ顛倒シ、本說附說ヲ交換スルガ如キハ、宜シク教授者ノ謹慎ナル考案ニ從フベシ、其ノ教授ノ方法、諸般ノ用意ニ至リテハ別ニ教師用ノ設ケアリテ存ス、

六、本書中、特ニ教師ニ注意スベキ事アリ、

- (一) 編首、動植礦ノ相互關係ハ、第一學年、及第二學年ニ、個々學ビ得タル自然物ヲ歸納シ、且演繹セシムル目的ヲ以テ、作意シタルモノルナニヨリ、教授者ハ深ク此ノ邊ニ留意スベシ、
- (二) 物理ノ條ニアル數量ハ、凡テ本邦ノ制度ニ換算シ、且略數ヲ用キタリ、是兒童ノ理會記憶ニ適セシメンガ爲メナリ、
- (三) 蒸氣機關ハ學ビ難キモノナレドモ、實用多キモノナレバ、ヨク意ヲ用キテ教ユベシ
- (四) 光線ノ畫キ方ハ、用器畫法ニ據ラシムベシ、

明治三十三年十月

編 者 識

理科小學卷之三

目次

(四 月)

動物と植物 其の一	一
動物と植物 其の二	二
植物と礦物	三
自然物	四
空氣の存在	五
水の存在	六
物體と分子 其の一	七

(五 月)

物體と分子 其の二	八
水平	九
水の壓力 其の一	十

水の壓力 其の二	十一
浮沈	十二
比重	十三
溶解	十四
化合	十五

(六 月)

水の分解	十六
水素	十七
酸素	十八
海水と食鹽	十九
鹽酸	二十
鹽素	二十一
水	二十二
空氣の壓力	二十三

(七 月)

氣壓計	二十四
晴雨計	二十五
ポンプ	二十六
排氣機	二十七
吹子	二十八

(九 月)

空氣の成分	二十九
窒素 (アンモニア)	三十
硝酸	三十一
空氣	三十二
硫黃と硫酸	三十三
熱の移動	三十四

(十 月)

膨脹と收縮	三十五
寒暖計	三十六

融解と凝固	三十七
蒸發と液化 其の一	三十八
蒸發と液化 其の二	三十九
蒸汽機關	四十
地熱 其の一 (火山)	四十一

(十一月)

地熱 其の二 (地震)	四十二
熱	四十三
光線	四十四
光の強さ	四十五
光の反射	四十六
鏡	四十七
光の屈折	四十八
三稜鏡	四十九

(十二月)

色 其の一	五十
色 其の二	五十一
レンズ 其の一	五十二
レンズ 其の二	五十三
光	五十四
音の起原	五十五
音の傳導	五十六
反響	五十七
調子	五十八
音の強弱	五十九
音	六十

(一月)

音の起原	五十五
音の傳導	五十六
反響	五十七
調子	五十八
音の強弱	五十九
音	六十

(二月)

人體の頭と軀幹	六十一
上肢と下肢	六十二

骨 骼	六十三
筋 肉 其 の 一	六十四
筋 肉 其 の 二	六十五
皮 膚	六十六
神 經、脊 髓、腦 髓、其 の 一	六十七
神 經、脊 髓、腦 髓、其 の 二	六十八
(三 月)	
觸 官、味 官、嗅 官、.....	六十九
聽 官	七十
視 官	七十一
神 經 系	七十二
人 と 自 然	七十三

理科小學卷之三 終

理科小學卷之三

藤 堂 忠 次 郎 編

動 物 と 植 物 其 の 一

(一) 動物は直接若くは間接に植物を食して生活せり、而して植物の多きほど動物は盛に繁殖す、之によりて動物の植物を要する所以を知るべし、

理科小學卷之四

教師へ注意

一、本書ハ小學校理科ノ教科用書ニ適セシメン爲ニ、教則大綱ノ要旨ニ基キ、程度ニ遵ヒ、慎思謹述シタルモノナリ、

二、理科ハ其ノ包含スル所、誠ニ廣ク、動物、植物、礦物、物理、化學、生理ノ外、雜フルニ天文、地文、氣象等ヲ以テス、是ノ故ニ之ヲ融解統合スルコト甚難シ、本書ハ專事實ノ難易、關係ノ親疎ト、季節ノ適否トニヨリ之ヲ次第シ、後必總フルニ概說ヲ以テス、是兒童ヲシテ理會且記憶シ易カラシメ、智識ヲシテ連絡歸着スル所アラシメ、併セテ推論ノ方法ヲ悟リ、眞理ノ唯一ヲ感ゼシメンガ爲ナリ、

三、觀察ノ精密ト、應用ノ廣濶トハ、理科教授ノ最意ヲ加フベキ所ナリ、本書ハ主トシテ、重キヲ實物ノ觀察ニ委ネテ文章ヲ簡單ニシ、貴キヲ智識ノ應用ニ歸シテ説明ヲ省略ス、之ヲ以テ一見簡略ニ過グル感ナキニ非ザルモ、其ノ實全ク之ニ反ス、是ノ故ニ本書ヲ用キテ教授ヲナス

モノハ、可及的兒童ヲシテ各自ニ實物ヲ携へ、實地ヲ調べ來リテ之ヲ解剖叙述セシメ、又ハ教師自兒童ヲ率ヒテ山川、海野、工場、牧地ヲ踏査實見セシメ、又ハ數多ノ實物、標本ヲ貯蓄シ、必用ノ栽培飼育ヲ實際ニ行ハシムベシ、之ヲ是務メズシテ、徒ニ本書ヲ用キルモ其ノ効ナキニ歸セン、之ヲ要スルニ本書ハ教授ノ總括ニ於テ用キルベキモノニシテ豫備、提示、比較、應用ノ如キハ皆教師ノ方寸ニアリテ存ス、

四、毎學年ノ教授ヲ四十週、八十時トシ、尙臨時ノ休業、復習ノ時間等ヲ斟酌シテ教材ノ分量ヲ定メ、且毎時二面ヲ以テ限リトス、是出來得ル丈、實際ニ適切ナラシメ教フル人學ブ者ヲシテ共ニ便利ヲ感ゼシメンガ爲ナリ、

五、本書ハ反覆熟慮シテ、全體ノ順序ヲ立テ、題目ヲ定メシノミナラズ、其ノ各課ノ説明ニ至リテモ、丁寧詳密ナル苦心アリテ存ス、然レドモ氣候ノ變異ト、土地ノ情況トニヨリ、前後ヲ顛倒シ、本說附說ヲ交換スルガ如キハ、宜シク教授者ノ謹慎ナル考案ニ從フベシ、其ノ教授ノ方法、諸般ノ用意ニ至リテハ別ニ教師用ノ設ケアリテ存ス、

六、本書中、特ニ教師ニ注意スベキ事アリ、

- (一) 器械ノ解説ハ凡テ節略シタルモノナレバ、間々實際ト少差アルコトヲ知ラザルベカラズ
- (二) 既ニ舊式ニ屬スル器械ト雖、理會シ易キ爲ニ採用シタルモノアリ、發電機、電話機ノ如キ是ナリ
- (三) 腸液、膽汁、脾液ハ相混シテ兩性ヲ有ストアルハ、三者皆兩性アリトニハアラズ、只簡略ニシタルナリ

明治三十三年十月

編者識

理科小學卷之四

目次

(四月)

天秤棒 其の一	一
天秤棒 其の二	二
槌子 其の一	三
槌子 其の二	四
滑車	五
勾配	六
楔	七

(五月)

螺旋	八
器械	九
重さ	十

顛倒		十一
墜落		十二
振り回し		十三
發條		十四
運動 其の一		十五

(六 月)

運動 其の二		十六
星 其の一		十七
星 其の二		十八
磁石 其の一		十九
磁石 其の二		二十
磁氣		二十一
炭酸 其の一		二十二
炭酸 其の二		二十三

(七 月)

炭酸 其の三		二十四
炭素 其の一		二十五
炭素 其の二		二十六
炭素 其の三		二十七
硅酸		二十八

(九 月)

澱粉		二十九
砂糖		三十
蛋白		三十一
脂肪		三十二
酒		三十三
酢		三十四

(十 月)

食物 其の一		三十五
食物 其の二		三十六

有機物	三十七
物質	三十八
摩擦電氣	三十九
電氣の二種	四十
電氣の誘起	四十一
雷電	四十二

(十一月)

電流	四十三
電池	四十四
電磁石	四十五
電信機 其の一	四十六
電信機 其の二	四十七
電話機	四十八
電氣燈	四十九
鍍金	五十

(十二月)

電氣	五十一
勢力 其の一	五十二
勢力 其の二	五十三
物体の變化	五十四

(一月)

口	五十五
胃	五十六
腸	五十七
消化器	五十八
心臟	五十九
血管	六十
循環器	六十一

(二月)

喉頭	六十二
----	-----

肺 臟	六十三
呼 吸 器	六十四
排 泄 器	六十五
一 般 衛 生	六十六
牧 畜	六十七
養 禽	六十八
養 蠶	六十九

(三 月)

飼 魚	七十
農 業	七十一
林 業	七十二
礦 業	七十三

理科小學卷之四 終

理科小學卷之四

藤 堂 忠 次 郎 編

天 秤 棒 其 の 一

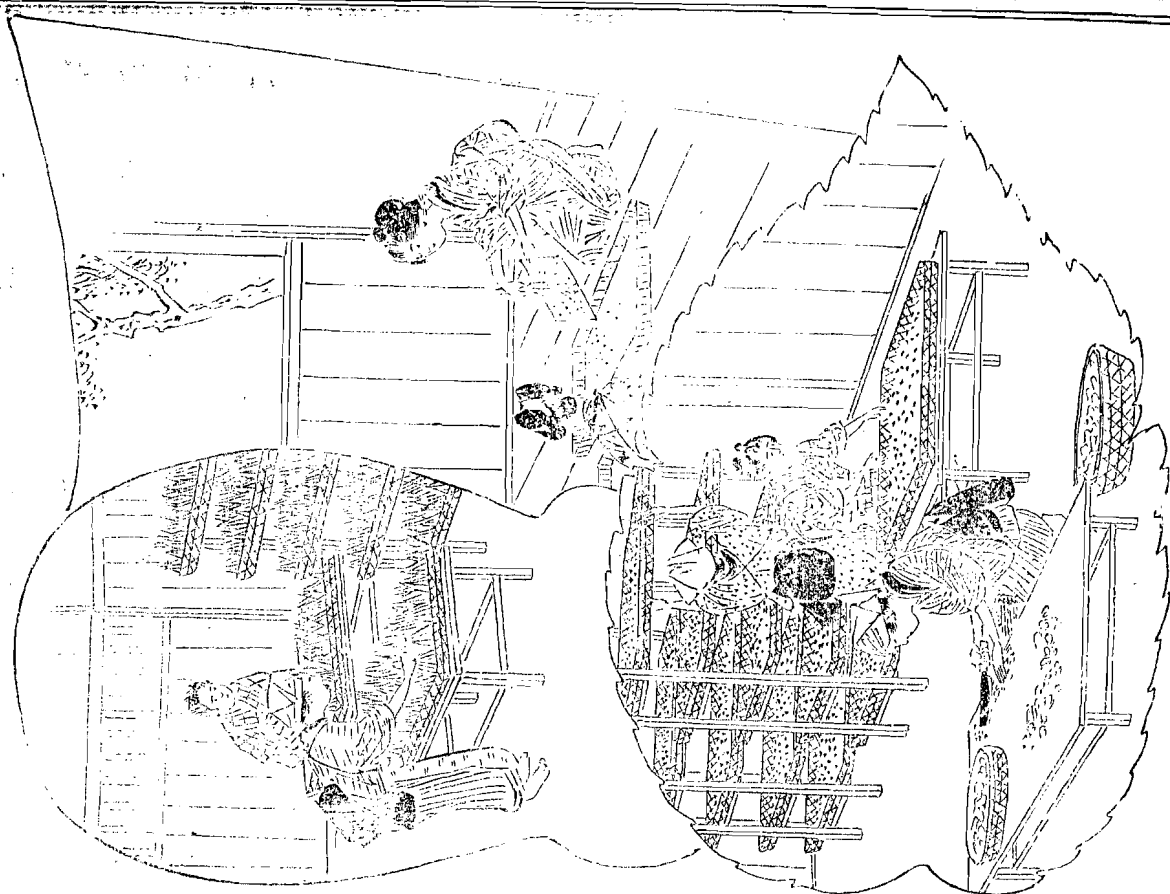
〔性質〕我等の荷ふ天秤棒の中央を肩にして之を平になし、其の兩端に同じ重さのものを吊るときは互に相平均す、然れども、若し其の一端の重さを増すときは、棒はたちまち其の重

養 蠶

〔品種〕蠶は其の飼育の期節によりて、春蠶、夏蠶、秋蠶の區別あり、

〔養蚕〕期節によりて凡、四月、六月、八月の頃各蠶卵紙を取出して孵化せしめ、次に之を掃き集めて蠶室に養ひ、其の間寒暖乾濕の適度を要す、四眠後數日を経て、之を簇に移し繭を作らしむ、〔飼料〕桑葉は初は日々六七回之を與へ、後に至れば四五回に減じ、天氣によりて之を加減すべし、

六十九

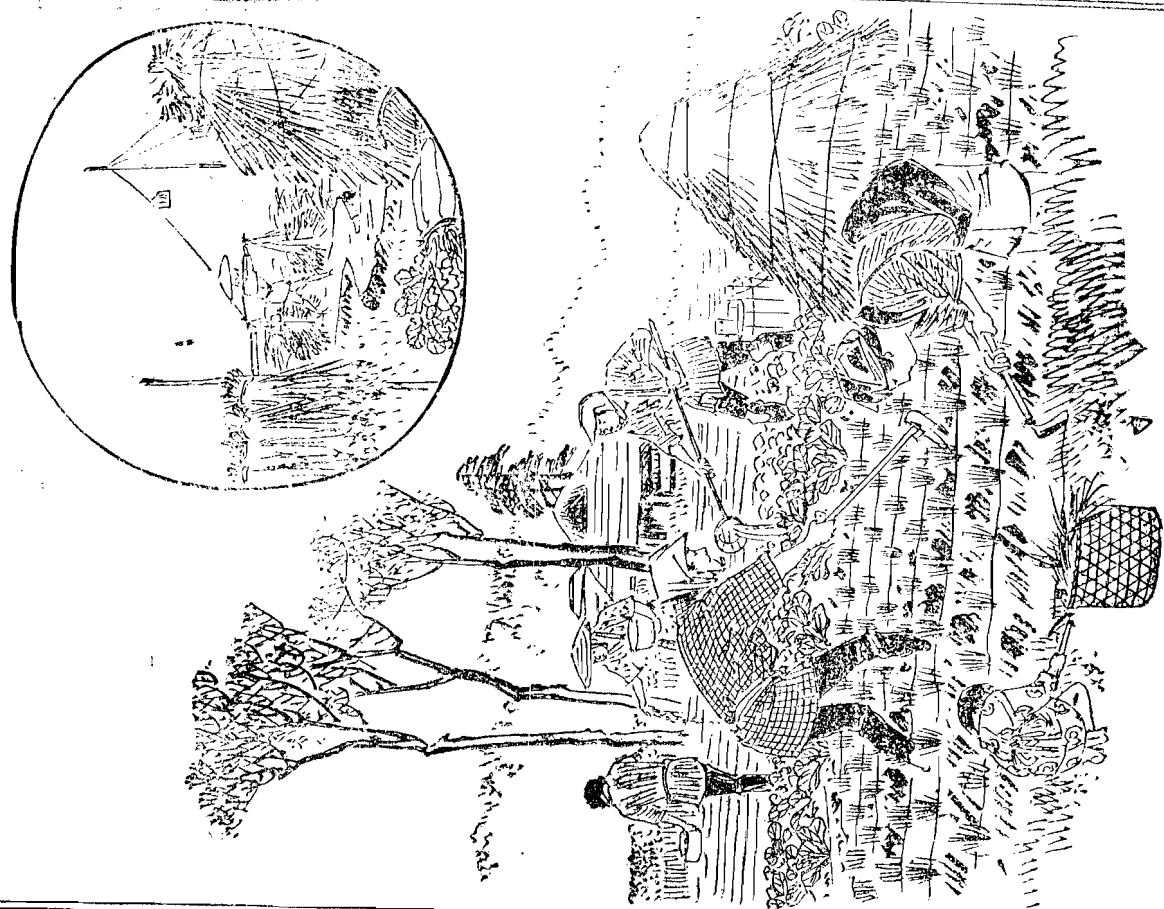


農 業

〔品種〕通常の作物は穀類、豆、瓜、葉菜、根菜等なり

〔培養〕先、種子を撰び分け、好時節を考へ、地の肥にたると瘠せたとに應じ分量を定めて蒔き下すべし、發芽したる後は其の周邊の雜草を除き去り根の際を耕して空氣を通じ肥料を配らんことを圖るべし、

〔收穫〕既に成熟すれば、宜しく天氣を見計りて速に取納れ、適當の場所に蓄へ、手入すべし、



茶と山茶 其の一	十一
茶と山茶 其の二	十二
猫 其の一	十三
猫 其の二 (虎、豹、獅)	十四
犬 其の一	十五

(六 月)

犬 其の二 (狼、狐狸、鼬鼠)	十六
菖蒲 (燕子花)	十七
豌豆 其の一	十八
豌豆 其の二 (蠶豆、大豆)	十九
鼠 (栗鼠、兔)	二十
象	二十一
鯨 其の一	二十二
鯨 其の二 (鯨、豚、獸、臘虎)	二十三

(七 月)

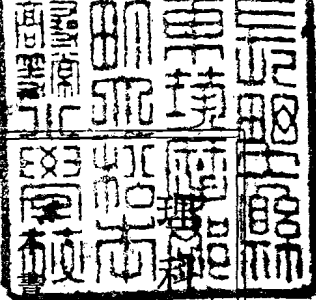
獸類 其の一	二十四
獸類 其の二	二十五
旋花 (牽牛花)	二十六
花 其の一	二十七
花 其の二 (梅、櫻)	二十八

(九 月)

桃、實 (梅、櫻)	二十九
南瓜 (西瓜、胡瓜、絲瓜)	三十
蛙 其の一	三十一
蛙 其の二	三十二
草綿 其の一	三十三
草綿 其の二	三十四

(十 月)

蛇 其の一	三十五
蛇 其の二 (蝮蛇、石龍子、鰐魚)	三十六



小學卷之二

教師へ注意

基キ、程度ニ遵ヒ、慎思謹述シタルモノナリ、
ハ小學校理科ノ教科用書ニ適セシメン爲ニ、教則大綱ノ要旨ニ

二、理科ハ其ノ包含スル所、誠ニ廣ク、動物、植物、礦物、物理、化學、生理ノ外、雜
フルニ天文、地文、氣象等ヲ以テス、是ノ故ニ之ヲ融解統合スルコト甚
難シ、本書ハ專事實ノ難易、關係ノ親疎ト、季節ノ適否トニヨリ之ヲ次
第シ、後必總フルニ概説ヲ以テス、是兒童ヲシテ理會且記憶シ易カラ
シメ、智識ヲシテ連絡歸着スル所アラシメ、併セテ推論ノ方法ヲ悟リ、
眞理ノ唯一ヲ感ゼシメンガ爲ナリ、

三、觀察ノ精密ト、應用ノ廣濶トハ、理科教授ノ最意ヲ加フベキ所ナリ、本
書ハ主トシテ、重キヲ實物ノ觀察ニ委ネテ文章ヲ簡單ニシ、貴キヲ智
識ノ應用ニ歸シテ説明ヲ省略ス、之ヲ以テ一見簡略ニ過グル感ナキ
ニ非ザルモ其ノ實全ク之ニ反ス、是ノ故ニ本書ヲ用キテ教授ヲナス